

(様式2)

2020年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

I	スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
II	マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
III	スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
IV	日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
V	スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 静岡県 】

学校名【 富士宮東高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	対象学年：1・2年生希望者85人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 () ③ その他 (希望者対象のパラリンピアン講演会) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	「オリンピック・パラリンピック大会への興味関心の向上やスポーツの価値への理解を深める」を目標として、その他、アスリートと社会人との両立、中途障害への理解、アスリートの身体能力とそれを維持する生活などについての理解が深まることをねらいとした。
5 取組内容	<p>地元である富士宮市出身のパラアイスホッケー選手、望月和哉氏を講師とした。</p> <p>事前学習としてアイスホッケーの紹介動画や練習動画を紹介した。また、講師が元車いすバスケットボールの選手だったので、バスケットボール部の生徒に当日の司会、シュート体験などで運営側として参加するよう指導した。本校は福祉科が設置されているので、当日使用する車いすの扱いを、福祉科生徒から普通科生徒に伝えた。</p> <p>当日は、講話が約25分間、生徒との体験が約25分間、まとめを10分間行った。アスリートの身体能力とその維持に要する努力というのは障害の有無に関係ないことを生徒に理解させるため、講演時間の半分近くを生徒との体験交流として、車いすでシュート、車いすでの後輪走行などを行った。</p> <p>講演中と講演後に、生徒からは多くの質問が出た。内容は、スポーツのこと、障害のこと、仕事のことなど多岐にわたった。</p>



6 主な成果

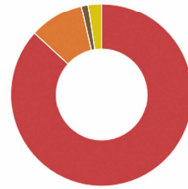
成果は、生徒が障害の有無にかかわらずスポーツや日々の過ごし方に価値を見出し、自分のこととして受け止め、今回の講演を今後の生活に生かそうとしたところにある。

講演後には、講演の様子を学校ホームページで紹介するなどした。積極的な取組が見られ、4の目標やねらいが達成できた。

以下はアンケートの抜粋である。

設問1 パラアイスホッケーをはじめとする、パラスポーツへの理解が深まった。

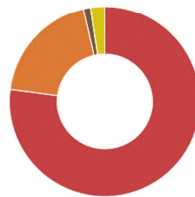
未回答を含める 回答数83



選択肢1	72人(86.7%)	あてはまる
選択肢2	8人(9.6%)	ややあてはまる
選択肢3	1人(1.2%)	あまりあてはまらない
選択肢4	2人(2.4%)	あてはまらない

設問4 講演を聞いて、今後の自分の生活や生活態度を変えようと思った。

未回答を含める 回答数83



選択肢1	64人(77.1%)	あてはまる
選択肢2	16人(19.3%)	ややあてはまる
選択肢3	1人(1.2%)	あまりあてはまらない
選択肢4	2人(2.4%)	あてはまらない

<生徒の主な感想>

- ・私が行っているスポーツとは種目も環境も違う中で、ゼロからスタートした競技人生の中で得たメンタルの強さや目標を絶対に達成させるという強い信念を学びました。また、それらを買きとおすための、大きな目標に向かうための小さな目標を達成するという攻略方法も学びました。
- ・努力は絶対に裏切らないことを学ぶことができました。昔は忙しすぎる生活をし、仕事場では怒られることが多く、それでも諦めずやりきってきたからこそ素晴らしいアスリートに成長し、仕事でも応援されるような選手になれたんだと思いました。私も勉強と部活動を両立し、周りから応援される人、チームにこれからも成長し続けようと思います。
- ・自分もスポーツをやっていて、目標達成のための道のりが遠いほどその意欲を維持することがとても大変だということを知っており、だからこそ小さな目標を作って行き大きな目標が達成できるようにしていくことが大切ということが分かりました。ただただ日常生活を過ごすのではなく意味ある日常生活にしていきます。
- ・講演から障害者であることを受け入れてもらえるかどうかという不安は私が思っている以上に大きいと感じました。全員が望月さんのように自分で行動を起こせるわけではないので、もし友人が障害を持ってしまった時や障害を持った友人ができた時は温かく受け入れたいです。もちろん障害を持っていないくても温かく受け入れたいです。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>コロナ禍であったので、三密を避けるために希望者を募り、放課後に講演を実施する形態にした。 アスリートの身体能力を間近で見るために、生徒との体験タイムを設定し、講師と相談の上、車いすに乗りながらのバスケットゴールへのシュートや、車いすでの後輪走行などを実施した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>講師は義足使用で普段の移動は自立していらっしゃるが、本校の駐車場から会場までが階段や段差などのバリアが多く、物品の運搬に人手を要した。講演会場の施設・設備について、詳しく打ち合わせを行うべきだった。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>総合的な探究の時間などで地域学習や福祉学習を取り入れていくので、引き続き望月氏に講師として来校いただくことを検討している。</p>